

# 教育学における オープンサイエンス

石井雄隆（千葉大学）

草薙邦広（県立広島大学）

古川雅子（国立情報学研究所）

雲財寛（日本体育大学）

中村大輝（広島大学大学院）

JAPAN OPEN SCIENCE SUMMIT 2021

# 教育データとその活用を巡る 社会的背景

- 研究機関
  - 九州大学ラーニングアナリティクスセンター
  - 東北大学ラーニング・アナリティクス研究センター
  - 国立教育政策研究所教育データサイエンスセンター
- 政策的動向
  - 人文学・社会科学データインフラストラクチャー構築推進事業
  - 教育データの利活用に関する有識者会議
    - 教育データ標準
  - 課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業
  - 教育再生実行会議第十二次提言（案）「ポストコロナ期における新たな学びの在り方について」におけるデータ駆動型の教育への転換による学びの変革の推進

# 本セッションの目的

- 教育学におけるオープンサイエンスについて検討する。
- 船守（2017）によると、オープンサイエンスは大きく3つの観点から考えることができる。
  - 研究成果や研究資料の公開・共有
  - 新たな学術の次元の追求
  - 社会との協働
- 本セッションでは、これら三つの観点から、教育学におけるオープンサイエンスについて検討することを目的とする。

# セッションの流れ

- 趣旨説明（5分）：石井雄隆
- 教科教育実践とオープンサイエンス（20分）：中村大輝・雲財寛
- 外国語教育研究とオープンサイエンス（15分）：草薙邦広
- LAとオープンサイエンスの動向（15分）：古川雅子
- パネルディスカッション（30分）：全員
- 総括（5分）：石井雄隆

# まとめ

- 研究成果や研究資料の公開・共有
  - データ・コードの公開
  - 学習ログの標準化規格
- 新たな学術の次元の追求
  - ラーニングアナリティクス
  - 経験サンプリング
- 社会との協働
  - オープンコミュニティ
  - データ管理計画に関する教材